

集団づくり及び総合的な学習の時間の場としての修学旅行の在り方

～ 中学校3か年の旅行・集団宿泊的行事の実践的取り組みを通して ～

水戸市立第四中学校 教諭 一色 三千男

1 はじめに

2 研究の実践

東京ディズニーランド校外学習（1年）での実践（平成12年度）

- ア 東京ディズニーランドを活動場所とした理由
- イ 東京ディズニーランド校外学習のねらい
- ウ 東京ディズニーランド校外学習の活動の流れ

船中泊を伴う自然教室（2年）での実践（平成13年度）

- ア 船中泊を伴う自然教室のねらい
- イ 船中泊を伴う自然教室の活動の流れ

修学旅行（3年）での実践（平成14年度）

- ア 修学旅行のねらい
- イ 修学旅行の活動の流れ

平成15, 16年度修学旅行での取り組み

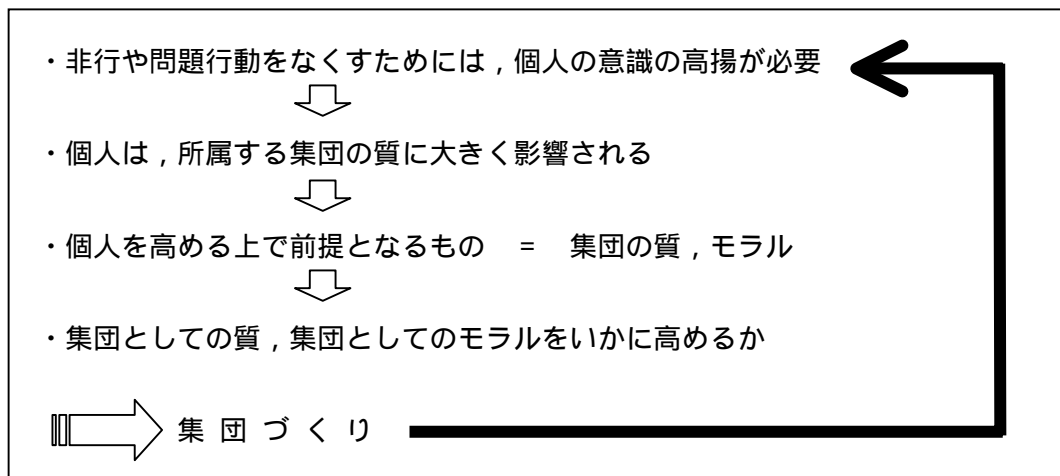
- ア 注目を浴びた体験活動（平成15年度）
- イ タクシー班別行動の導入（平成16年度）

3 実践の成果

4 今後の課題

1 はじめに

本校は、県下の大規模校であり、私が学年主任として3年間担当したこの学年は9クラスで約350人を数える生徒を擁していた。それだけに生徒指導上の問題も学年にとって大きな問題であった。そこで、次のような考えのもとに生徒指導上の問題に対応し、学年経営を進めていくことにした。



修学旅行などの旅行・集団宿泊的行事は、集団やリーダーを鍛え、高めるための格好の場である。

また、新教育課程に導入された総合的な学習の時間は、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること、また、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探求活動を主体的、創造的に取り組む態度を育てることにねらいがある。

本研究は、「集団づくりの場」「総合的な学習の時間の場」としての修学旅行を達成させるために、中学1年から旅行・集団宿泊的行事で取り組んできた実践をまとめたものである。

2 研究の実践

東京ディズニーランド校外学習（1年）での実践（平成12年4月～6月）

本校では、1年時の5月に校外学習を実施している。中学校入学後、最初の旅行・集団宿泊的行事であり、2年時、3年時の活動につながる基になる活動としてとらえた。

ア 東京ディズニーランドを活動場所とした理由

班活動で1日の生活をする上で、格好の場所である。

生徒たちにとって魅力的な場所である。

事前の活動として、班別行動計画の作成・総合的な学習の時間の課題の設定
当日の活動として、班別行動・総合的な学習の時間の課題解決にむけての現地
での調査活動

事後の活動として、総合的な学習の時間の課題をまとめるための班新聞発行

—————▶ 生活班を単位にした種々の活動が展開できる。

今後の船中泊を伴う自然教室（2年）、修学旅行（3年）における班活動の訓練の場

イ 東京ディズニーランド校外学習のねらい

学校生活での生活班をグループ活動の単位にすることにより，班長としてのリーダー性を育てるとともに，班の中で互いに協力し合う心を育てる。

1日の生活を班で活動することを通して，生徒が自分たちの生活を管理できる力を育てるとともに，生徒一人一人の集団への所属感を高める。

校外学習における学習課題を設定し，総合的な学習の時間の場とする。

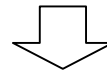
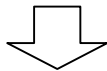
ウ 東京ディズニーランド校外学習の活動の流れ

班の活動・個人の活動

- ・校外学習の課題づくり
ディズニーランドで調べることを班や個人の学習課題として設定する。
- ・班新聞(調べたことをまとめるもの)の作成計画を立てる。
- ・係，役割分担を決める
いつ，誰が，何をやるのか。

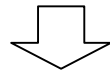
学級の活動・学年生徒会の活動

- ・校外学習のきまりづくり
学年生徒会で原案づくり 学級で修正案 学年生徒会で最終決定
- ・スローガン作成
学年生徒会 学級 学年生徒会
- ・しおり表紙イラスト募集キャンペーン



校外学習当日

- ・校外学習のきまりを守り，自分たちで決めたことを自分たちで守り通す。
- ・班の活動計画に基づき，一人一人が各自の役割分担を実行する。
- ・学習課題を解決するための活動(班新聞作成のための取材活動等をする。)
- ・1日の生活を共にすることを通して，お互いを理解し合い，親睦を深める。



事後の活動

- ・班新聞の作成
ディズニーランドで調べてきたことを，新聞形式にまとめる。
各自の分担箇所の記事をまとめる。全体のレイアウトを考え，記事を配置する。
- ・完成した班新聞は，各教室前の廊下に掲示し，それぞれの学級の取り組みが見られるようにする。
- ・班新聞コンクールの実施
取材内容，紙面構成など総合して，優秀な班新聞を表彰する。

ここでの流れが，2年生時の船中泊を伴う自然教室，3年生時の修学旅行での基本的な流れとなった。



学年最優秀賞を受賞した班新聞

生徒の事後の感想文から

今回、私はアトラクションではなく、学習面の方に印象が残った。いつもなら、アトラクションが楽しかったとか、パレードを見て良かったとしか思わないけれど、今回は違った。たぶん、それは迷子センターの人の優しさや、笑顔で私たちの質問に答えてくれたお兄さんがいたからだろうと私は思った。

5月12日、私は、班で決めたサービス施設のことを調べるため、迷子センターへ向かった。中に入ると優しくなお姉さんやお兄さんがいた。質問に答えてくれませんかと言うと、優しい笑顔でいいですよと言ってくれた。そして、どの質問にも笑顔で答えてくれた。

私は、こんなところが印象に残ったのだろう。私は将来、獣医になりたいと考えていますが、このお兄さんのように優しくお客さんに接していきたいと思った。

船中泊を伴う自然教室（2年）での実践（平成13年4月～7月）

水戸市では、6月に中学校2年生を対象に船中泊を伴う自然教室（以下船中泊）を北海道で実施している。北海道の自然や文化、船での生活等、生徒たちにとって好奇心を沸き立たせるに十分な素材があり、総合的な学習の時間を進める場として大変適している。また、4泊5日にわたり、学級の仲間と寝食を共にすることを通して、集団への所属感を深めたり、リーダーとしての資質を高めたりすることができた。

ア 船中泊を伴う自然教室のねらい

北海道の雄大な自然にふれ、自然の豊かさや美しさに感動する。

班活動を通して、班長のリーダーとしての意識を高めるとともに、互いに協力する心を育てる。

集団生活を通して、生徒同士や生徒と教師の相互理解を深めるとともに、学級集団としてのまとまりを深める。

総合的な学習の時間を通して、課題解決や探求活動に主体的、創造的に取り組む態度を育てる。

右の資料は、船中泊に向けて班編成についての学年通信である。1年の校外学習と同様に学校生活の生活班を体験活動、総合的な学習の時間の活動の単位とした。

ChallengeII 水戸四中 第2学年通信 No.4
発行日 平成13年 5月 2日

船中泊に向けて 第2期班編成

2年生になって、早くも1ヶ月が過ぎようとしています。昨年に引き続いて取り組んでいる班活動ですが、各クラスとも順調に活動ができています。清掃や給食といった当番活動が、時間内に互いに協力しながらできており、身支度や給食のテーブルクロスもきちんとできています。朝のあいさつはもろんのこと、廊下ですれ違うときにも『こんにちは』と気持ちの良いあいさつができています。2年生のスタートとして十分に合格点がつけられるものであり、すばらしいスタートを切ることができています。

第1期班の活動のねらいは、生活の基本徹底づくりでしたが、そのねらいを十分に達成することができました。生活の基本ができた第1期班に区切りをつけ、本格的な班活動としての第2期班編成が各クラスで進んでいます。すでに編成を終えて、第2期班をスタートしているクラスもあります。1年生の時に経験してきたことなので、班編成に当たっての班長候補や班編成会議(班長会議)などもスムーズに取り組んでいます。意欲的なその態度に2年生になっての前向きな姿勢を感じ、うれしく思っています。

今回の第2期班は学校生活における生活班であると同時に、2年生最大の行事である船中泊の活動班でもあるわけです。船中泊における第2期班の位置づけは、船の中や北海道での体験活動・総合的な学習の活動の単位です。充実した体験活動や総合的な学習での課題づくり・課題解決のためには、班としてのまとまりがあり、集団としての高まりが見えなければなりません。

第2学年では、4月当初に学年の教師間で次にあげる学年がめざす生徒像を設定し、それに向けて取り組みことを確認しました。

学年がめざす生徒像

一進んで自分の良さを生かせるアクティブな生徒一

- 1 思いやりの心で仲間と生活できる生徒
- 2 できうる最高を求めてがんばる生徒

船中泊は、このめざす生徒像に向けての大きな一歩となる活動の場ではなくありません。その意味で、第2期班の果たす役割は極めて大切なわけです。船中泊まで約1ヶ月間での学校生活や事前の取り組みに於いて班、学級、学年がさらに一段レベルアップし、船中泊が充実したものになることを大いに期待しております。



テーブルクロスもパツパツ

イ 船中泊を伴う自然教室の活動の流れ

(ア) 班・個人の学習課題の設定

これらの課題は、右の写真のように掲示し、自分のクラスだけでなく、他のクラスの班や友達がどのような課題で船中泊にのぞむのかが分かるようにした。



(イ) 事前調べ学習の実施

ア) 自然理解のために

- ・北海道の自然についての事前調査の徹底

『北海道ってどんなところ?』

イ) 総合的な学習の時間のために

体験活動についての事前調査～何が体験できるのか

体験することについての事前調査(事前の調べ学習)

例) バターづくり～バターについての調べ学習(バターの作り方、バターの歴史など)

札幌市内班活動～札幌市内の事前調査(見学ポイントの選定など)

北海道についての事前調査～地理的側面、歴史的側面等

船についての調べ学習～海上輸送の歴史、乗船する船について等

(ウ) 現地での活動

- ・体験活動，現地での見学・調査活動
- ・班長会議，班ミーティング
- ・学級訓，学級旗発表会の実施



ジャムづくり体験



学級訓・学級旗発表会

(エ) 事後の班新聞，船中泊報告文集の作成

事後の活動としては，校外学習と同様に総合的な学習の時間の課題として調べたことや体験したことを班新聞にまとめた。最後に船中泊報告文集を作成した。これはクラスごとの編集をせず，体験のジャンル別、活動別等に分けて編集し，後輩が船中泊の計画を立てる上で検索しやすいようにデータベース化して，活用できるようにした。

修学旅行（3年）での実践（平成14年4月～6月）

修学旅行のしおりの序文として次の文章を載せた。

プロジェクト『修学旅行』

第3学年主任 一色 三千男

1年の東京ディズニーランド校外学習，2年の船中泊，この学年は，それぞれ，これまでの水戸四中にない取り組みをしました。その一つは，普段の生活班を活動班としたことでした。それは，行事を通して，学級や班の仲間との絆を深め，自分は，この学級・班の一員であるという所属感を深めることでした。二つ目として，総合的な学習の取り組みがありました。課題づくり，現地での調べ学習，事後の班新聞づくりの流れをこの2年間で確立しました。

このように，この修学旅行は2年前の校外学習を計画した時点ですでに始まっていたのです。二年越しの大きなプロジェクトだったのです。だからこそ，このプロジェクトを完成させる修学旅行を何としても成功させたいという思いでいます。

修学旅行そのものの準備は，3年に進級してからの短期間のものでしたが，みなさんには，これまでの体験や学習があります。きっと，このプロジェクトを成功させてくれるものと確信しています。さあ，修学旅行です。楽しい思い出とともに，仲間づくり，学習面の充実を図れる修学旅行を実現しましょう！

しおりの序文にもあるように、修学旅行はこれまで1年の校外学習、2年の船中泊で取り組んできた旅行・集団宿泊的行事の実践の集大成としてとらえた。

ア 修学旅行のねらい

わが国の歴史・文化のふるさとである京都・奈良を訪ね、先人の築いた文化遺産のすばらしさや自然の美しさに触れ、文化遺産や自然を大切にしようとする心を養う。

クラスや班ごとに計画を立て、古都の名所旧跡を訪ねることを通して、自主性や協調性を養う。

生徒と生徒、先生と生徒が寝食を共にすることにより、好ましい人間関係づくりをし、また、団体活動を通して、健康と安全に留意した望ましい集団生活の仕方を身に付ける。

イ 修学旅行の活動の流れ

学校生活における生活班を活動の単位とすることは、すっかり定着し、4月の3年進級早々に班編成に取り組んだ。この生活班を中心に、修学旅行の具体的な計画づくりが進められた。

活動の流れはしおりの序文にもあるように、校外学習、船中泊の取り組みを通して、この2年間で確立したものである。

(ア) 修学旅行における総合的な学習の時間の課題づくり及び事前学習

修学旅行の場となる京都、奈良は、1200年以上もの歴史を有し、歴史的にも、文化的にも日本を代表する都市であり、総合的な学習の時間の課題となる素材が豊富にある。課題としては、次のようなものを生徒たちは設定した。また、校内でインターネット閲覧が可能になり、インターネットを通して事前学習の資料を入手する姿も見られるようになった。

- ・ 京都、奈良の伝統文化について
- ・ 京都の産業について
- ・ 京都、奈良の歴史について
- ・ 京菓子等に見られる食文化について
- ・ 神社仏閣建築の特色について
- ・ 仏像等の仏教美術について 等々

(イ) 現地の調査活動，体験活動

第1日 京都学級別行動

京都との出会い<京都の伝統文化・産業の理解>

学級単位の見学・体験活動

修学旅行初日は，昼頃に京都に到着する日程であり，余裕のある日程を組むために京都市内に限定した学級単位の体験学習を実施した。下の写真にもある京扇子絵付け体験，清水焼絵付け体験のほか，友禅染体験などの体験学習ができた。



金閣寺にて



京扇子絵付け体験



清水焼絵付け

第2日 京都，奈良班別行動

現地での班単位の調査活動，体験活動

班別行動では，活動の範囲を広げ，班の計画によっては，奈良へ行く班もあった。

体験活動の中には，京都ならではのものとして，右の写真のような舞妓体験をした生徒もいた。

第3日 京都学級別行動

学級単位の見学・体験活動

昼までの短い時間ではあったが，抹茶体験を実施した学級もあり，京都での最後のひとときを過ごした。



舞妓体験をした生徒

(ウ) 事後の班新聞づくり、発表会、班新聞コンクールの実施

事後の活動として定着した班新聞づくりに取り組んだ。班新聞づくりも3年目になり、それぞれの班が課題に基づいて、工夫ある紙面構成をし、見やすい紙面づくり、目を引く紙面づくりなど工夫していた。できあがった班新聞は学級で発表会をし、学級で優秀班新聞を決定した後、廊下に掲示した。その後、学年の担任外の教師で学年優秀賞、最優秀賞の選考を行い、学年集会の場で表彰を行った。

班新聞の取り組みは、他の学年にも広がり、行事終了後、班新聞づくりに取り組む姿が1年や2年でも見られるようになった。



廊下に掲示された修学旅行班新聞

学年優秀賞を受賞した修学旅行班新聞



舞妓を学習課題とした班新聞



京都の神社を学習課題とした班新聞



平成14年5月18日(土)午前6時30分、水戸駅は雨模様だった。その憂鬱な天候とは対照的な、生き生きとした表情の生徒たちの顔があった。出発式が始まった。実行委員の3組皆川尚英君の力強い出陣のあいさつに続く生徒たちの元気な声に、これから始まる21日3日の旅への期待感が感じられた。7時16分、団体専用臨時列車は、水戸駅7番ホームを後にした。トランプなどのゲームで友との楽しいふれあいの時が流れた。上野駅到着、山手線・京浜東北線で東京駅へ。いっしょか、雨もやみ、いよいよ



京都へと導く新幹線ひかり315号が東京を出発した。お弁当、おやつ、友との語り…。車中での2時間半は瞬間に過ぎ、古都京都が生徒たちを迎えた。初日の行程は、学級別行動・体験学習だった。京菓子への絵付け、友誼体験、清水模への絵付けなど、それぞれの学級で選択した体験学習をした。京都の伝統工芸にふれることができたひとときだった。土産物屋では、買えない自分だけのお

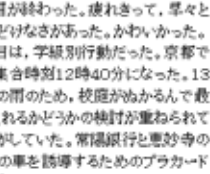
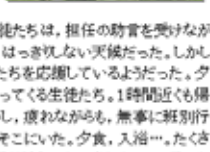
土産を作ることができた。夕方には、宿舎であるホテル本能寺会館に着いた。そのホテルは主任の一人も高校時代に泊まった伝統のあるホテルだった。ホテルは、バス停・地下鉄駅が目の前。班別行動のスタート場所として最高だった。夕食、入浴…。京都第1日が終わった。翌日は、これまでの経活動の成果が問われる班別行動日だった。主任も学年職員も翌日の班別行動が、修学旅行のメインの日程であることを実感していた。生徒たちの活動に期待していた。



5月19日(日)、班別行動の朝を迎えた。またも雨だった。班別行動出発前、これまでの指導の流れに違い、『服装の整った班から出発』の形を取った。教師集団にこだわりのあった「きちんとした服装・身なりで行動させたい」と、教師集団の気遣いと生徒集団の自覚の高まりがあった。1組から9組まで、すべての班が出発した。出発して間もない頃に担任の携帯着信音が一〇〇君がいなくなりました「京都駅に行けません」「女子とはぐれてしまいました」等々、生徒たちは、担任の助言を受けながらも、自分たちの目と耳と足で京都や奈良の街を巡った。はつきりしない天候だった。夕方、5時、日も傾きはじめた。続々と班別行動を終えて帰ってくる生徒たち。1時間近くも帰着が遅れ、担任や主任をやきもきさせた班もあった。しかし、疲れながらも、無事に班別行動を終えたことに、満足感と安堵感の表情の生徒たちがそこにはいた。夕食、入浴…。たくさんの歴史ある光景とたくさんの思い出を胸に京都第2日目が終わった。疲れきって、早々と寝息を立てる生徒の寝顔に、中学3年と書っても、まだあどけなさがあつた。かわいかった。



修学旅行最終日、5月20日(月)となった。最終日は、学級別行動だった。京都での最後の時を過ごした。あつという間に京都駅集合時刻12時40分になった。13時14分新幹線出発。そのころ、水戸は午前中の雨のため、校庭がぬかるんで最悪の状況にあった。生徒を迎える保護者の車を校庭に入れるかどうかの検討が重ねられていた。校庭利用が不可能な時に備えた動きを四中職員がしていた。常陸銀行と恵比寿の駐車場の信用依頼を手配し、それらの駐車場に保護者の車を誘導するためのプラカード作り、さらに聖所聖所の交差点に立つ職員配置計画を立てていた。出迎えの体制はできていた。幸いにも、3年生が学校に到着する頃には、校庭のコンディションも回復し、はじめの予定通り、保護者の車を校庭に入れることができた。修学旅行の最終日、陰では、3学年の生徒のために、たくさんの人々の努力があった。



修学旅行についての学年通信

平成15, 16年度修学旅行での取り組み

ア 注目を浴びた体験活動(平成15年度)

修学旅行最終日に着物の着付け体験をしたクラスがあり、さらにその着物を着たまま、最終日

を過ごし、家に着物姿で帰るという体験をした。マスコミの注目を浴び、後日、京都新聞にその記事が掲載された。右はその新聞記事である。

4、5月で1000人突破 [修学旅行生] 着付け体験

着物で「ただいま」

帰宅後 返送

「ピエスを充実させてい...」
 同財団は修学旅行生の...
 宿泊し着付け講座など...
 を開催。着物や帯、パ...
 ズ、帯など一式を貸し...
 出している。事業を始...
 四十九年度は一校百...
 四十七人だったのが、...
 二〇〇二年度は三十五...
 手五十四人と初めて千...
 委員だ。

今年は五月中旬、十四...
 千九十八人を合わせ、六...
 までの予約を合わせると...
 千五百人を超える予定...
 だ。原則は京都市内での...
 着付けに限定している...
 が、奈良市内から京都...
 利用校を増やすため、旅...
 付をすすめる。サビー...
 スの拡大が成功してい...
 る。

「二十五年には茨城...
 県立市立第四中の男女...
 約四十人が着付け、女子...
 は小紋、男子は袴で市...
 内の着物姿の姿を、その...
 効果は大きい」と喜ん...
 だ。

「楽しさを知って...
 同財団の外編一夫業務...
 課長は「若いうちに着...
 物の楽しさを実感して...
 らうことができれば、京...
 都の街に着物姿が増えて...
 効果は大きい」と喜ん...
 だ。

修学旅行生を呼びし、人を呼んで、事業...
 団(京都市下京区)で...
 二、四、五月の累計が昨...
 年度実績の年間千人を上...
 回る勢い。着物を着て寺...
 社仏閣を巡るだけでなく...
 く、着付け体験講座で編...
 織する学校もあり、同財...
 団は二十五年に及びさせ

イ タクシー班別行動の導入（平成16年度）
 タクシーによる班別行動は、目新しいものではないが、水戸市では、市内での申し合わせにより、これまでは、利用されていなかったが、平成16年度初めて導入された。時間のロスが少なく、多くの見学地を回れ、班単位の体験活動もできるなどの利点から本校でも導入に踏み切った。当日は9クラスで72台のタクシーが次々にホテル玄関前に横付けされ、生徒たちを乗せて行った。



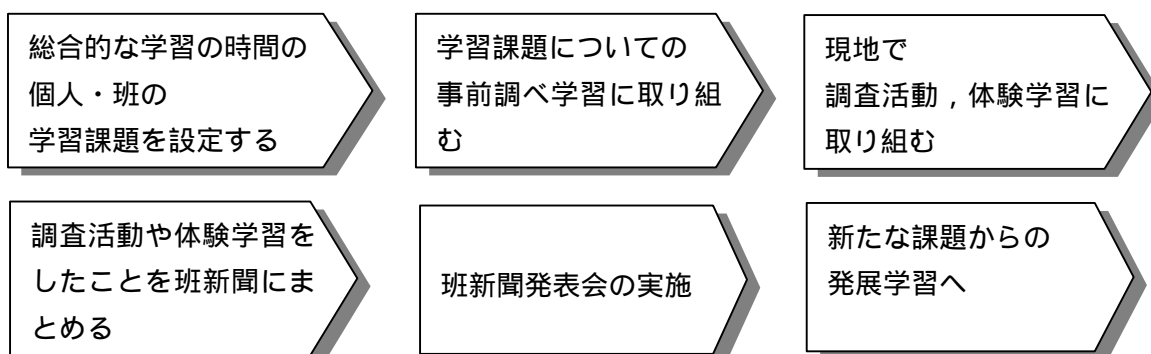
タクシーで出発

3 実践の成果

総合的な学習の時間の取り組みについての流れができた。

基本的な流れは1年の校外学習できあがり、2年の船中泊、3年の修学旅行とその流れを踏まえ、生徒たちはそれぞれの活動に意欲的に取り組むことができた。

総合的な学習の時間の流れ



総合的な学習の時間では、この流れで取り組むことにより、旅行・集団宿泊的行事を総合的な学習の時間として有効に活用することができた。

普段の学校生活での生活班を活動班にすることで集団の質の向上が図れた。

行事のためのグループを作るのではなく、普段の学校生活での生活班を活動の単位にすることで、各活動を通し、リーダーである班長を育て、班の集団としての質の向上が図れた。

実行委員会を組織することで、生徒たちの自治的な力の向上が図れた。

各学級のリーダーの核である学級委員の組織である学年生徒会を中心に行事に対する実行委員会を組織し、持ち物や服装についてのきまり、その他生活上のきまりをつくったり、現地での班長会議の運営に当たったりした。これらの活動を通して、生徒の自治的な力の向上を図ることができた。



学年生徒会での話し合い

4 今後の課題

話し合いの時間の確保，話し合いの質の向上

集団づくりにおいて、「話し合い」は土台となるものである。学級内，班内のことについて，みんなで話し合いをし，決定しなければならない。「話し合い」は，生徒たちに「自分の意志で決める」「自分たち相互の力で解決する」という力をつくり出す上で大切である。学校生活の多忙さの中で，いかに「話し合い」の時間を確保するかが大きな課題である。旅行・集団宿泊的行事における取り組みでも，話し合いを通して，いろいろな計画が立てられたり，集団生活におけるルールづくりがなされたりする。その意味で，話し合いの質を高めることも必要である。集団の質の向上や問題解決に向けて，建設的な意見交換ができる訓練は，行事だけにとどまらず，普段の学校生活における話し合い活動にかかっていることを意識しながら指導に当たっていく必要がある。

総合的な学習の時間の充実のための旅行・集団宿泊的行事の在り方

総合的な学習の時間の充実のためには，旅行・集団宿泊的行事における事前学習をより充実させる必要がある。これから行く場所が，どのような場所で，どのようなものがあるのかなど，事前に十分に調べておくことで現地での活動がより充実する。そのためには，種々の情報収集の方法や手段を生徒たちに知らせる必要がある。

班別行動における交通手段のあり方

平成15年度までは京都での交通手段として地下鉄，バスの1日乗車券を利用した。バスや地下鉄の運行表をもとに計画し，現地でも移動の際にバスの路線番号やバス停を確認し，班員同士で話し合い，判断しながら1日の班別行動をすることになる。これは，集団づくりや総合的な学習の時間の観点から考えると，意味のあることである。しかし，タクシーによる班別行動では，効率よく見学でき，より多様な体験活動も組むことも可能になる。修学旅行において，何に重きを置くかにより交通手段の選択が決まってくるが，『単に便利で安全だから』という理由だけでタクシーを利用するという選択ではなく，修学旅行において何をねらいとするのかを明確にして交通手段を選択する必要がある。